

アンケート及びワークショップの結果等について

令和 7 年 10 月 29 日

1. 「時代の潮流」の整理

総合計画を策定するうえで考慮すべき「時代の潮流」を分野ごとに整理します。

| | | | |
|------|---|-------|--|
| 生活環境 | <ul style="list-style-type: none">・収納事務の効率化、キャッシュレス決済の導入・水道管の老朽化による事故の発生・政府による国土強靭化の推進・コミュニティ意識の希薄化・匿名・流動型犯罪グループへの対応・自転車青切符制度の導入 | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none">・予防医療、健康寿命の延伸による国民健康保険医療費の削減・ゲートキーパー（命の門番）などの人材育成・フレイル（虚弱）予防の考え方の広がり・ヤングケアラーの課題の顕在化・医療、福祉サービスを支える人材の不足 |
| 都市基盤 | <ul style="list-style-type: none">・AIオンデマンド交通の普及・公共ライドシェア、日本版ライドシェアの普及 | 教育文化 | <ul style="list-style-type: none">・ICTの活用・教員の不足、児童数の減少・インクルーシブ教育の考え方の広まり・部活動外部指導員のしくみの広まり・やさしい日本語の考え方の広まり |
| 産業経済 | <ul style="list-style-type: none">・人手不足、後継者不足の深刻化・賃上げの促進・育成就労制度の開始 | 行財政 | <ul style="list-style-type: none">・DXの推進、OCR・RPAの活用・PFIによる事業の効率化・デジタルデバイドへの対策・定年年齢の引上げ・マイナンバーカードの普及、活用 |

ポイント

- ・人口減少や少子高齢化によって、様々な分野で人手不足が進行している。
- ・人手不足を補うため、広域連携や異業種連携の重要性が高まっている。
- ・デジタル技術の活用による業務の効率化やサービスの利便性向上が各分野で進んでいる。
- ・新たな制度、仕組みに対応した施策の見直しが必要である。

2. 「振返りシート」の整理

各課で作成した現行計画に対する「振返りシート」について、特に重要な内容を分野ごとに整理します。

| | | | |
|------|--|-------|--|
| 生活環境 | <ul style="list-style-type: none">木造住宅の耐震診断・改修補助制度を実施したが申込がない移住体験ツアーを企画したが実施はなし地域水道で渇水問題が生じている消防団員の確保が課題消火用水の確保、既設防火水槽の改修の必要性がある | 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none">市立病院において、令和2年より薬剤師不在の状況が続いている公共性の高い施設への託児コーナー、授乳室の整備が進んでいない人材不足のため、多様な生活支援サービスを行う主体や地域での互助活動が進んでいない |
| 都市基盤 | <ul style="list-style-type: none">令和7年度から運用を開始した空き地バンクの周知を図る必要がある | 教育文化 | <ul style="list-style-type: none">高等学校教育との連携ができていない老人ホーム施設や旧金山小学校校舎に保管されている文化財は、建物の老朽化に伴い湿気や温度変動、虫害などによる劣化リスクが高まっている。「芸術の森」としての具体的な取組、整備が進んでいない県や国が主催する国際交流事業に携わっているが、実績を把握できていない |
| 産業経済 | <ul style="list-style-type: none">後継者確保が必要共同組織の立ち上げは、個々の事業者等（特に小規模事業者）の状況に格差があるため難しいI T等の積極的活用による経営管理の合理化が進んでいない | 行財政 | <ul style="list-style-type: none">地域コミュニティ活動の活性化のため「地域活動活性化推進員制度」に取り組んだが、積極的な活用は見られなかった |

ポイント

- 多くの補助事業等に取り組んでいるものの、実績が少ないものもあり、情報発信や制度設計に課題があると考えられる。
- 人手不足や後継者不足が要因となって多くの課題が発生している。
- 所管課を明確にする必要がある事業が見られる。

3. 「市民アンケート」の結果整理

■ 調査概要

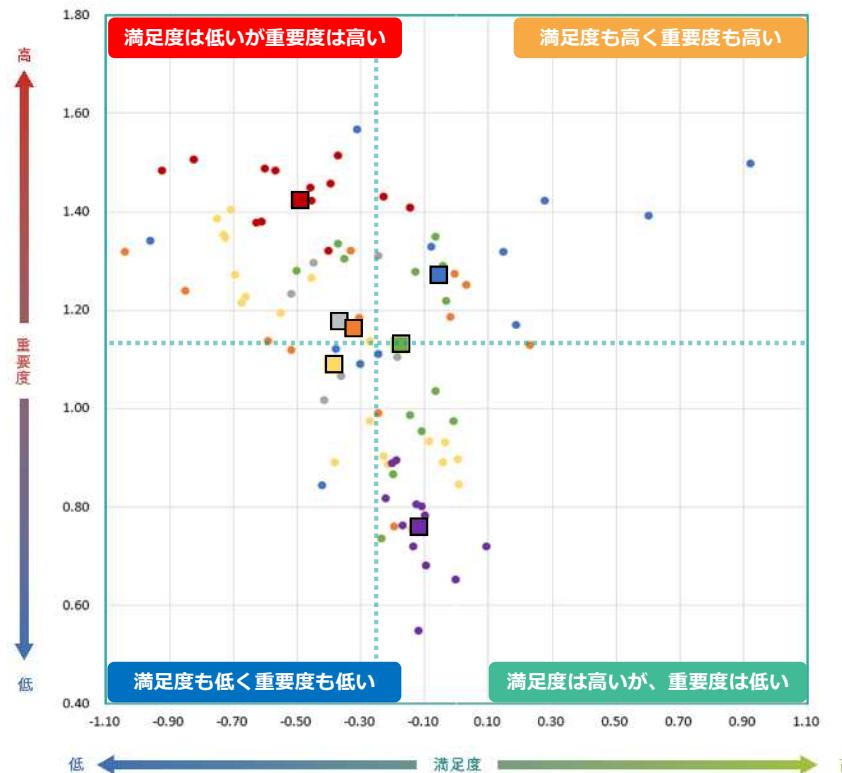
「第7次枕崎市総合振興計画」及び「第3期枕崎市地方創生総合戦略」の策定にあたり、現行の総合振興計画・総合戦略に基づく施策に対する、市民の満足度・重要度やまちづくりに対する意識などを把握するため市民向けのアンケート調査を実施しました。

| | |
|------|---|
| 目的 | 現行の総合振興計画・総合戦略に基づく施策に対する、市民の満足度・重要度やまちづくりに対する意識などを把握するため |
| 対象 | 19歳以上の市民 |
| 実施方法 | 紙の調査票の郵送配布・回収とインターネットでの回答の併用 |
| 実施期間 | 令和7年2月 |
| 回収数 | 392人 |
| 質問項目 | <ul style="list-style-type: none">① 属性（性別、年代、居住地区、職業、居住年数、定住・UIターンの別）② 枕崎市に対する意識③ 定住意向、枕崎市に対する愛着や誇りを感じるか、その理由④ 将来都市像の実現度、現行の施策に対する現在の満足度・今後の重要度⑤ 将来の枕崎市のキーワード、希望するまちの姿⑥ 今後、注力すべき施策⑦ 近所付き合いの程度⑧ 市民活動について⑨ 市民協働を推進するために必要な施策⑩ 自由意見 |

3. 「市民アンケート」の結果整理

令和6年度に実施した「市民アンケート」の結果を整理します。

▼重要度・満足度調査の結果



▼各分野で「重要改善項目」に該当した内容

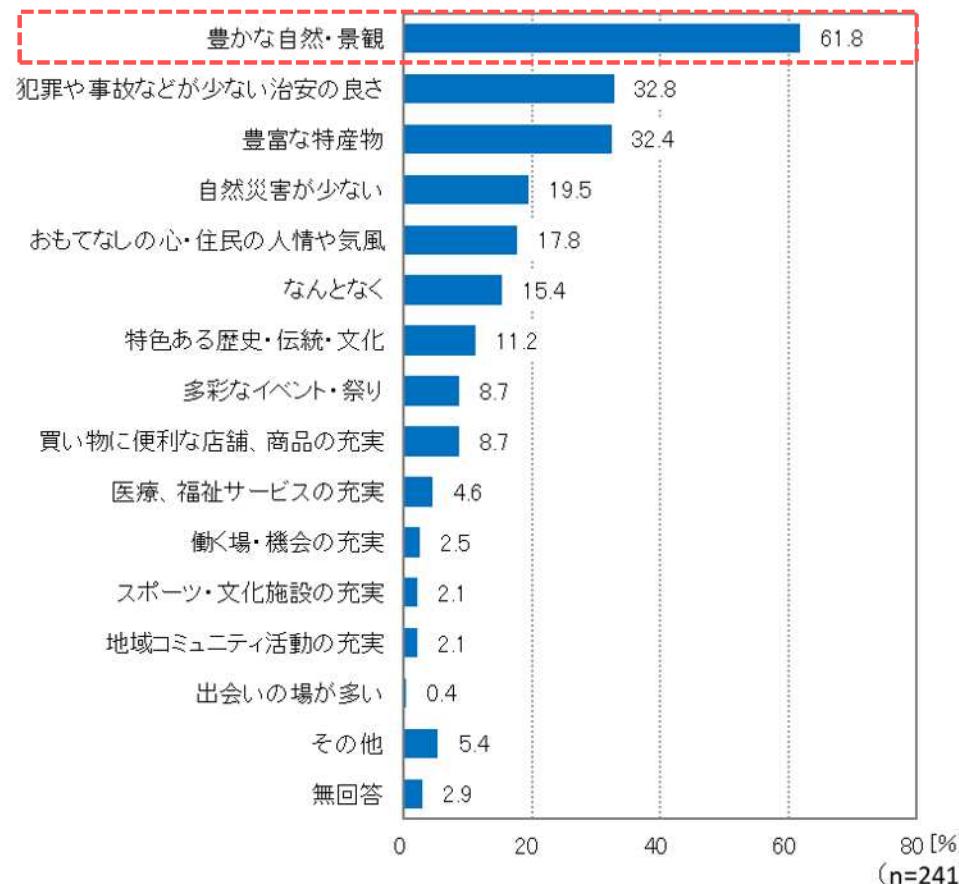
| | |
|--------------|---|
| 生活環境 | <ul style="list-style-type: none">・防災体制の強化・空き家、空地対策の推進 |
| 都市基盤 | <ul style="list-style-type: none">・公共交通の充実 |
| 産業経済 | <ul style="list-style-type: none">・雇用の創出・新産業の創出、企業支援・観光業の振興・企業誘致 |
| 健康・福祉 | <ul style="list-style-type: none">・子育て、出産の支援 |
| 教育文化 | <ul style="list-style-type: none">・高等学校、大学への進学支援 |
| 行財政 | <ul style="list-style-type: none">・市民と行政が協働するまちづくり・市民ニーズを定期的に聞く仕組みづくり・行政への市民参加の仕組みづくり |

| | 個別の取り組み | 平均 |
|---------------|---------|----|
| 分野① 生活環境について | ● | ■ |
| 分野② 都市基盤について | ● | ■ |
| 分野③ 産業について | ● | ■ |
| 分野④ 福祉について | ● | ■ |
| 分野⑤ 教育・文化について | ● | ■ |
| 分野⑥ 共生協働について | ● | ■ |
| 分野⑦ 行財政運営について | ● | ■ |

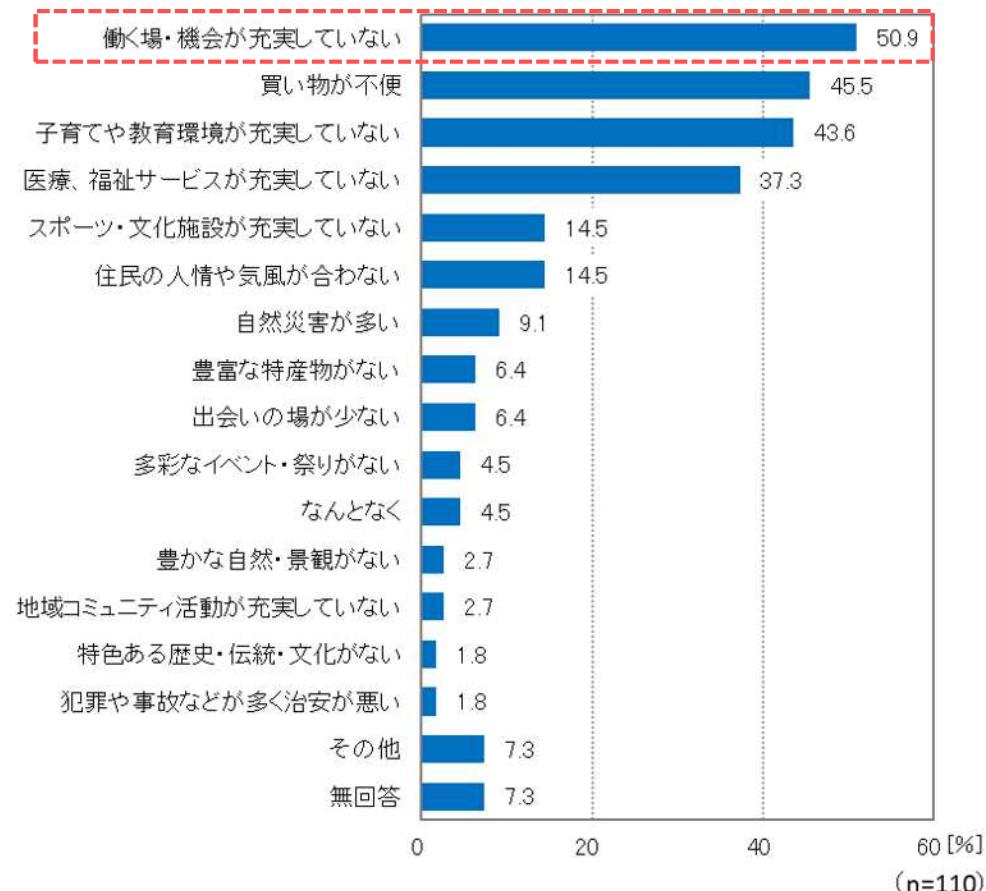
3. 「市民アンケート」の結果整理

令和6年度に実施した「市民アンケート」の結果を整理します。

愛着や誇りを感じるもの（3つまで）



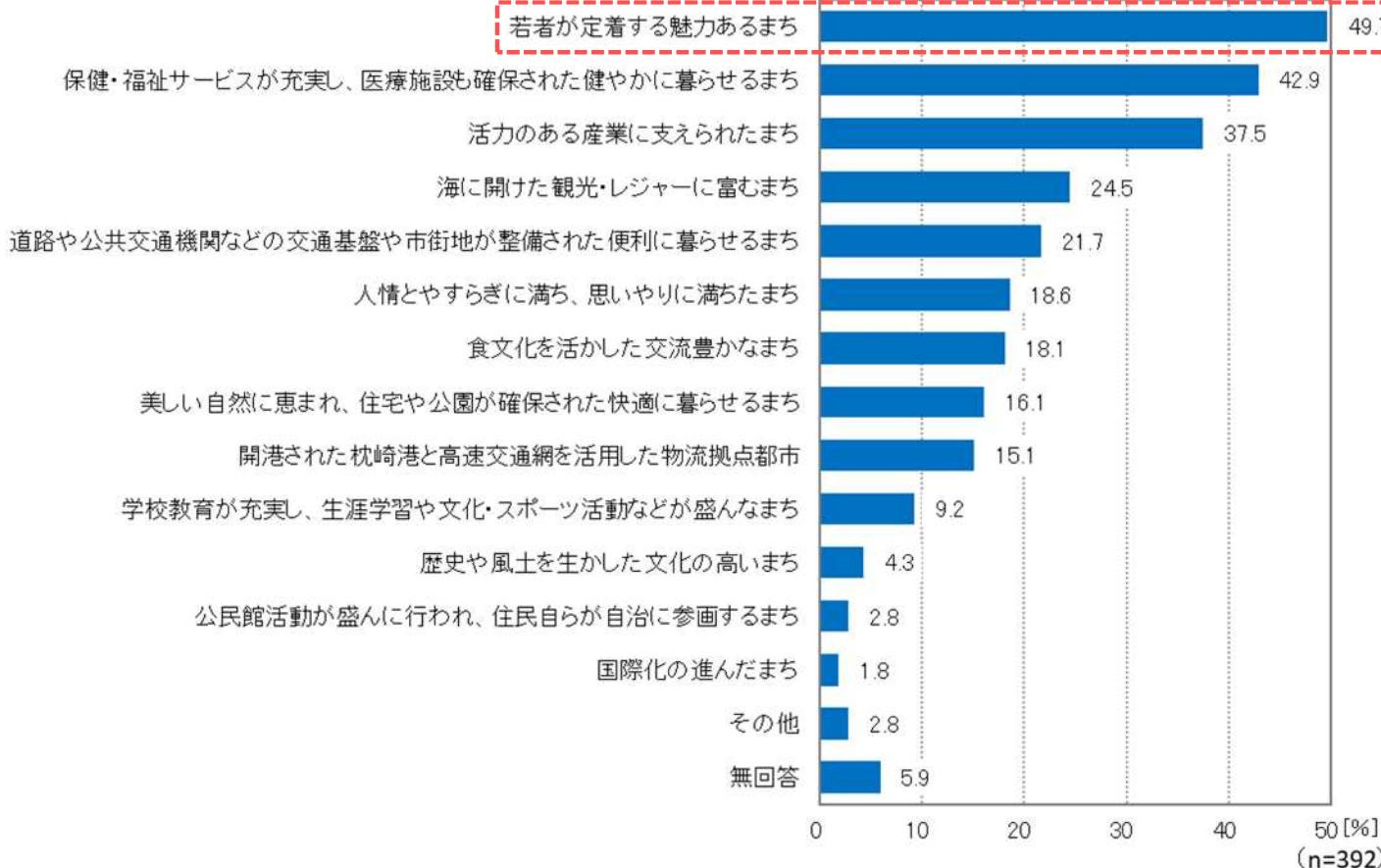
愛着や誇りを感じない理由（3つまで）



3. 「市民アンケート」の結果整理

令和6年度に実施した「市民アンケート」の結果を整理します。

目指すべきまち（3つまで）



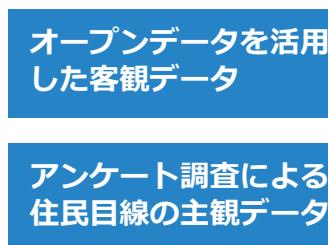
ポイント

- ・市民は本市の「豊かな自然」に愛着や誇りを感じている。
- ・市民は「若者が定着する魅力あるまち」を望んでおり、そのようなまちの実現に向けて、「子育て支援」や「産業振興（雇用創出、新産業の創出、企業誘致等）」が重要と考えている。

4. 「幸福感に関するアンケート」の結果整理

■ Well-Being指標（地域幸福度指標）とは

Well-Being指標は地域における「暮らしやすさ」や「幸福感」を数値化したもので、デジタル庁によって調査・算出の方法が定められている。「暮らしやすさ」や「幸福感」の他にも「医療・福祉」や「移動・交通」、「文化・芸術」など、様々な項目が住民目線で評価されており、自治体ごとのWell-Being指標として公開されている。



▼Web上で公開されているWell-Being指標



■ Well-Being指標の考え方を用いるメリット

Well-Being指標の考え方を行政運営に用いるメリットとして以下の5つが挙げられる。

- メリット1 市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」を可視化できる
- メリット2 福祉や教育、交通、文化、芸術など、様々な分野を総合的に評価できる
- メリット3 客観データ及びアンケートに基づく主観データを用いて算出されるため、「市民目線」を重視した評価が可能。
- メリット4 アンケートの設問や指標の項目、算出方法が規格化されているため、他自治体との比較によって「気づき」を得やすくなる。
- メリット5 同一の指標を使用し続けることで、時系列的な評価をすることが可能。

4. 「幸福感に関するアンケート」の結果整理

■ 調査概要

市民にとって分かりやすい第7次枕崎市総合振興計画を策定するための参考にするとともに、市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」の向上に向けた施策検討の基礎資料とするため、枕崎市市民の幸福感に関するアンケート調査を実施しました。

| | |
|------|--|
| 目的 | 市民にとって分かりやすい第7次枕崎市総合振興計画を策定するための参考にするとともに、市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」の向上に向けた施策検討の基礎資料とするため |
| 対象 | 中学生以上の市民 |
| 実施方法 | 紙の調査票の郵送配布・回収とインターネットでの回答の併用 |
| 実施期間 | 令和7年7月～ |
| 回収数 | 891人 |
| 質問項目 | ① 属性（性別、年代、居住地区、職業） ② 幸福度、暮らしやすさ ③ 「生活環境」、「地域の人間関係」、「自分らしい生き方」に関する満足度 |

4. 「幸福感に関するアンケート」の結果整理

▼ 市民の「満足度」が高かった設問

| カテゴリー | 設問 | 満足度 |
|-------|-----------------------------|------|
| 住宅環境 | 自宅には、心地のいい居場所がある | 80.7 |
| 自然の恵み | 暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる | 76.0 |
| 文化・芸術 | 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい | 75.1 |
| 住宅環境 | 自宅の近辺で、騒音に悩まされていない | 71.3 |
| 健康状態 | 私は、身体的に健康な状態である | 67.1 |

▼ 市民の「満足度」が低かった設問

| カテゴリー | 設問 | 満足度 |
|-------------|---------------------------------|------|
| 多様性と 寛容性 | 私は、見知らぬ他者であっても信頼する | 12.0 |
| 雇用・所得 | 私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい | 13.6 |
| 遊び・娯楽 | 私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある | 15.1 |
| 雇用・所得 | 私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある | 15.4 |
| デジタル 生活 | 私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる | 20.1 |

※11段階評価の場合は11=とても幸せ（満足）、0=とても不幸（不満足）として設定しており、8以上を回答した人の割合を、5段階評価の場合は5=非常にあてはまる、1=全くあてはまらないとして設定しており、4以上を回答した人の割合を幸福度として算出。デジタル庁が定める地域幸福度指数の算出方法とは異なる。

▼ 「幸福度」との相関が高かった設問

| カテゴリー | 設問 | 相関係数 |
|-------|--------------------------|-------|
| 健康状態 | 私は、精神的に健康な状態である | 0.501 |
| 自己効力感 | 自分のことを好ましく感じる | 0.447 |
| 住宅環境 | 自宅には、心地のいい居場所がある | 0.446 |
| 公共空間 | 暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい | 0.380 |
| 健康状態 | 私は、身体的に健康な状態である | 0.362 |

ポイント

- ・満足度が高い項目は「住宅環境」、「自然の恵み」、「文化・芸術」となっている。
- ・満足度が低い項目は「多様性と寛容性」、「雇用・所得」、「遊び・娯楽」となっている。
- ・「幸福度」との相関が高い項目は「健康状態」、「自己効力感」、「住宅環境」となっている。

5. 「市民ワークショップ」の結果整理

■ 開催概要

市民の意見やアイデアを計画に反映させ、より市民に寄り添った総合振興計画及び地方創生総合戦略を策定するため、市民ワークショップを開催しました。

| | |
|------------|--|
| 目的 | 市民の意見やアイデアを計画に反映させ、より市民に寄り添った総合振興計画及び地方創生総合戦略を策定するため |
| 参加者 | 枕崎市民 のべ50名 |
| 実施日 | <ul style="list-style-type: none">■ 第1回 2025年9月27日■ 第2回 2025年10月4日 |
| ワークショップの内容 | <ul style="list-style-type: none">■第1回<ul style="list-style-type: none">・ Well-Beingの考え方に関する講義・ 枕崎市のSWOT分析■第2回<ul style="list-style-type: none">・ 目指したい未来についての意見交換・ その未来を目指す理由について・ その未来を目指すことの価値について・ 目指す未来の実現のために取り組むこと |

5. 「市民ワークショップ」の結果整理

▼ 枕崎市のSWOT分析（第1回ワークショップより）

| | T（心配なこと・ピンチ） | O（追い風・チャンス） |
|----------------------------------|---|--|
| S （ 良 い と こ ろ） | <p>■ 良いところ × 心配ごと</p> <p>水産加工技術 × 資源減少・気候変動 → 省資源型・高付加価値商品への転換</p> <p>地域コミュニティのつながり × 高齢化 → 高齢者支援ネットワークを維持・強化</p> <p>自然資源 × 災害リスク → 防災教育や観光と防災を組み合わせた取組</p> <p>文化行事・伝統 × 人口減少 → 行事の縮小ではなく「継承型イベント」への転換</p> <p>1校区1小1中を活かした小中の連携×少子化 → 教育の質向上、児童生徒の学力向上</p> | <p>■ 良いところ × 追い風</p> <p>かつお節ブランド × 和食ブーム → 海外販路拡大、観光資源化</p> <p>自然環境 × 観光需要 → アウトドア・体験型観光の展開</p> <p>お茶 × 移住や観光の関心 → お茶文化体験・6次産業化</p> <p>地域のつながり × デジタル技術 → コミュニティ活動の見える化・発信強化</p> |
| W （ 困 り ご と） | <p>■ 足りないところ × 心配ごと</p> <p>後継者不足 × 高齢化進行 → 農業・漁業の共同経営やスマート化で担い手を補う</p> <p>商店街衰退 × 物価高騰 → 地域内流通・地産地消の仕組みを強化</p> <p>ごみ処理・施設老朽化 × 財政難 → 広域連携によるインフラ整備・コスト削減</p> <p>情報発信の弱さ × 行事の衰退 → デジタルアーカイブ化で文化を残す</p> | <p>■ 足りないところ × 追い風</p> <p>若者流出 × 移住・二拠点居住のニーズ → 若者受け入れ、UIターン施策強化</p> <p>医療・福祉の不足 × デジタル化 → 遠隔医療、オンライン健康サービス</p> <p>交通の不便さ × 観光需要 → 観光客・住民兼用の交通システム導入</p> <p>PR不足 × 外部企業・大学との連携 → 地域資源を発信する新たな広報・プロジェクト</p> |

5. 「市民ワークショップ」の結果整理

▼ 「目指す姿」の実現に向けて取り組むべきこと（第2回ワークショップより）

| 班 | 概要 |
|---|--|
| A | <ul style="list-style-type: none">・若者の市外への流出は受け入れながら、市外へ出た子たちが様々な知見、ノウハウを持って枕崎市に帰って来るような環境を整備する。Iターン、Uターン者への支援など。・地域行事への参加カードを作成し、地域コミュニティのつながりを強化、世代間交流を活性化。・経済特区のようなものを設定し、産業支援、起業支援を行う。 等 |
| B | <ul style="list-style-type: none">・今の大世代が「お手本」となって自分のできることに取組み、子ども世代に見せることで、若者の育成、産業活性化等につなげる。・市と事業者が連携し、福祉分野を中心とした人材育成（学べる場の創出）を行う 等 |
| C | <ul style="list-style-type: none">・世代間の交流の場を設定する、学校給食で枕崎茶を提供する、情報発信を強化する、災害に強いまちづくりなど、様々な取組みが考えられるが、「まずやってみよう」の精神を大切にする。 |
| D | <ul style="list-style-type: none">・医療機関の統合を進める、観光協会から特産品協会に改編する、AI×ロボットの町づくり、電動キックボード等の2次交通を整備する、など、新しい取組みにチャレンジする。「オール枕崎」の体制を構築し、市外からの視点も取り入れながら、枕崎市に根付く悪習、古い価値観を壊していく。 |
| E | <ul style="list-style-type: none">・ITの専門学校の設立や、鹿児島大学水産学部のキャンパス誘致など、特徴のある人材育成の場を創出。・空き家を活用する事業に対しての補助事業を設立。 |
| F | <ul style="list-style-type: none">・小中学校の統廃合を見据え、学校跡地等を活用し、校区ごとに生活拠点があるまちづくり（機能の集約）を行う。避難所としての機能も。・地域と行政の連携、情報共有を強化し、「前例にとらわれない」取組みを推進。 |

6. 「市長インタビュー」の内容整理

「市長インタビュー」において前田市長より得た回答について、要点を整理します。

■ 産業経済について

- ・人材確保が産業振興の根幹であることから、人材確保に向けた支援にも注力していく。単に働き方改革を推進するのではなく、労働者が健康な状態で、いきいきと働ける環境づくりを併せて進めていきたい。
- ・特に「若者世代」の所得向上が重要と考えている。働く人が満足に暮らしていけるような環境を整え、それが若者の定住にもつながる。これまで以上に、「産業競争力の向上」に注力する。

■ 健康・福祉について

- ・市内では医療機関が充実しているものの、特に産婦人科や小児科で、医師の高齢化が進んでいるという課題がある。このような課題の解決も含めて子育てしやすい環境をつくることが、少子化問題に対する重要な施策の一つである。

■ 教育文化について

- ・小中学校の在り方については、再編も視野に地域と一緒に協議を進めて行きたい。
- ・地域の人材育成、人材確保も見据えて、高等学校の生徒維持に取り組んでいく。

■ Well-Being指標について

- ・Well-Being指標は市民にとてもわかりやすい言葉で構成されているので、行政と市民がコミュニケーションをとる際に活用し、これまで以上に意義のある意見交換を市民の方々と重ねていくことを考えている。